

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学術)	氏名	林 仙雅
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
日本語の連体格助詞「の」と韓国語の冠形格助詞「의(ui)」の対照研究			
論文審査担当者			
主 査	広島大学大学院国際協力研究科	准教授	深見兼孝 印
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	黒田則博
審査委員	広島大学大学院国際協力研究科	教授	佐藤暢治
審査委員	広島大学大学院文学研究科	教授	今田良信
審査委員	広島大学	名誉教授	多和田眞一郎
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、日本語と韓国語の対照研究において、連体格助詞「の」と冠形格助詞「의(ui)」の対照研究が、他の格助詞の対照研究と比べ遅れており、その原因は従来「の」と「의(ui)」で結びつけられる名詞にほとんど制約がないと思われてきたからであるという認識のもと、「の」によって結びつけられる名詞と「의(ui)」によって結びつけられる名詞にはどのような違いがあるかを明らかにすることを主眼としたものである。</p> <p>論文は8章からなっている。第1章で研究の背景や目的を述べ、第2章で先行研究の検討を行い、第3章で調査の方法について述べ、小説とその翻訳を相互に比較するという方法をとることを明らかにしている。第4章で「の」、「의(ui)」と前後の名詞からなる名詞句が動詞を使って翻訳された時のパターンから、名詞句を構成する名詞が意味上どのように結びついているかが、日本語は韓国語に比べ、文脈により依存して解釈されると述べている。次に第5章では、原作と原作と同じ言語による翻訳、およびその翻訳の原作を相互に比較することで、「の」、「의(ui)」によって結びつけられやすい名詞とそうでない名詞があり、それが「の」と「의(ui)」では差があると述べている。第6章では、似たような意味の名詞でありながら、「対応して翻訳」される場合とそうでない場合を比較し、韓国語は日本語に比べ、名詞が意味上どのように結びついているかが、その名詞の意味自体から予想しやすいと述べている。第7章では名詞が2つ以上「の」や「의(ui)」で結ばれている時のその名詞を分析し、両言語で独自の組み合わせが見られるとしている。第8章は結論と今後の課題である。</p> <p>本論文は、先行研究が踏み込んでない事柄を扱っている点が独創的であり、十分評価に値する。また、原作同士の比較、原作と翻訳の比較、翻訳同士の比較のすべてを使って考察したことも、従来の日本語と韓国語の対照研究では見られなかった独自の方法として評価できる。なお、予備審査で指摘されたことは、概ね修正されていることを確認し、まだ修正されていない箇所を修正し、主査がチェックすることとした。</p>			